

②父親の育児参画の促進

1 現状

●奈良県の子育ての特徴

- ・固定的性別役割分担意識が全国一高い (H26県調べ)
- ・専業主婦率 全国1位 (40.5%)
- ・核家族率 全国1位 (64.1%)
- ・男性の帰宅時間 全国ワースト4
- ・男性の育休取得率 3.2% (民間正規従業員)
- ・子育てに精神的不安感・負担感ある母親 約50%

・母親の「孤育て」
・産後は不安定な母親

●全国のデータ・傾向

- ・産後うつ高リスク者の割合は、産後2週目がピーク 25% (国立育成医療研究センター調べ)
- ・母子家庭になったときの子どもの年齢は0~2歳が一番高い (H23厚労省全国母子世帯等調査)
- ・出産後2-3年の間に、夫婦仲が悪化するという現象 産後クライシス (ホルモンバランス等 複合的な影響) H24年NHKが提唱

<母親へのアンケート調査や子育て支援者の聞き取り結果>

●父親の子育て事情

○1歳未満児の母親 840名の声

(H30ならこーぷ・「つながる箱プレゼント事業」訪問時の県アンケート調査 中間報告)

- ・手助けしてほしい人は 夫 80% ・手助けしてくれる人は 夫 50%
- ・しんどいことはなかった人 21%
- ・しんどい時期 (9ヶ月以上の親222人) 4ヶ月まで 約40%
- ・しんどい内容 (//) 夜泣き寝不足 30%

○県内の父親・母親の状況 (父親の子育て支援者の声から)

- ・「イクメン」ブームにより父親の家事育児スキルは向上したが、母親はまだ不満
- ・一方、やらない父親への風当たりも強い
- ・夫には自分の思うようにやってほしいが、実は自信はない母親、やらされ感のある夫
- ・夫婦がうまくいっているケースは、父親の家事育児のスキルや長さとも必ずしも比例しない。
- ・母親が産後のしんどいときに気持ちを共有できる事が大事。

現状からの課題 (わかったこと)

- ① 母親の「孤育て」の解消のためには 父親の子育て参画は不可欠
- ② 母親の産後の精神的身体的な負担軽減のためには産後早期の父親の関わりは重要
- ③ 父親の関わりは、子育てのスキルや時間の長さよりも、母親と気持ちを共有し、子育ての一体感を持てることを重視
- ④ 父親の子育て参画を進めるためには、職場環境の改革や企業側の理解促進が必要

2 取組の検討のポイント

① 母親が、産後のしんどい時期に、父親との子育ての一体感を感じることができるためには、父親が**出産後のどの時期に、どのような関わり方をするべきか**

② **父親が子育てするための休暇制度**のモデルを考え、奈良県内の企業に普及できないか

【取組をすすめるために把握すべきこと (例)】

- ① 女性の産後の心身の状況
- ② 奈良県の母親はどんな時期がしんどいか、何がしんどいか
- ③ 父親が、どの時期に、どれくらい休んで、どんな寄り添い方をすれば効果的か
- ④ 父親が休暇をとって母親に寄り添うことは、その後の父親による子育てにどんな影響があるか
- ⑤ 企業にとってどんなメリットがあるか

フランスの休暇制度

- ・フランスでは、「男性を家庭に戻す」を旗印に 約2週間の男性の産休「父親休暇」を実施している。2013年には対象者の約7割がこの休暇を取得

【想定される効果】

- ① 父親は子育ての喜びを感じ、母親は父親とともに育てているという一体感が持てる
- ② 父親の子育て経験は、仕事へのモチベーションを高め、職場に多様な考え方をもたらす
- ③ 企業が従業員の子育てを応援することは、ワーク・ライフ・バランスの実現だけでなくダイバーシティ経営 (多様性を活かす) につながる
- ④ 母親の子育ての不安感・負担感軽減による児童虐待の未然防止

●議論のポイント: 取組の方向性は適切か。また進めるには どのような点に留意すべきか。